

# 放牧前にワラビ駆除必要

わが家では春から初夏にかけて山菜のシーズン。ミツバやフキノトウは裏の畠にも出るが、ワラビは近くの山に採りに行き、山菜ご飯にしたり、おひたしやみそ汁の具にする。ワラビは私にとって身近な山菜だ。

ところがワラビには毒性のある物質が含まれている。われわれ人間は若芽の頃、アグロバチを抜きをして、それらを取り除いて食べるが、馬や牛は開いた葉をそのまま吃るので、ワラビ中毒という病気になってしまう。

牧場公園では毎年6月になると、ゲレンデに牛を放牧する。前にも書いたが、放牧は牛にとってビタミンやミネ

牛で症状も原因物質も違う厄介な病だ。馬では、チアミナーゼという酵素が体内のビタミンB<sub>1</sub>を壊し、神経に炎症が起こり立てなくなったり、痙攣を起こしたりする。

しかし牛は、ブタキロシドという物質が骨髄の血を造る機能を阻害し、急性だと貧血を起こし、血が固まりにくくなつて、全身の粘膜から出血を起こし、数日で死んでしまう。生き延びて慢性になつても、膀胱腫瘍になることがあり、馬や牛を放牧する所にワラビは禁物だ。

渡辺 大直



★24★

ラル豊富な青草が食べられ、適度に運動ができる、飼う人にとっても省力的な管理法だ。さらに牧場公園にとっては、牧歌的な雰囲気を醸し出す重要なアイテムで、これを自当してに来園されるお客様もあ

る。そんなことから、ゲレンデのワラビ駆除は、放牧前にやさなければならない大事な作業だ。ゴールデンウイークが過ぎ、日ごとに日差しが強くなると、草が茂り始める。す

ると谷から吹き上げる風がゲレンデを走るたびに、草の波が山頂に駆け上がりしていくよう見えだす。そうなると放牧の準備だ。ラビに除草剤をかけて回る。ゲレンデは広く、アップダウンもあり体力のいる作業だが、メタボ対策になるだろうと思つて立候補し、作業を手伝つた。

ゲレンデにはワラビの群落もあり、「来年はワラビ狩りイベントを企画してはどうかなア」などと考へながら作業した。ワラビ駆除が終わると牧柵を張り、徐々に牛を放牧に慣らす。6月の中頃には、ゲレンデで草をはむ但馬牛を見ていただけのよつになるだろう。ご来園をお待ちしていま



放牧前に必要となるゲレンデに群生するワラビの駆除

## ■筆者プロフィル■

わたなべ・ひろなお  
1954年、新温泉町浜坂出身。県職員として畜産行政に長年携わってきた。県立但馬牧場公園「但馬牛博物館」館長。